

## 日本ベントス学会誌 投稿規定

1. 投稿資格：投稿論文の第一著者は正会員および個人の賛助会員に限る。ただし、共同執筆者には会員外の方を含むことができる。なお、運営委員会が特に認めた場合には、会員外から特別寄稿を受けることができる。投稿される原著の報文（原著論文、短報および総説）は未発表のものに限る。
  2. 報文の性格：日本ベントス学会誌は原則として和文を掲載する。科学的知見がそれを立証すべき資料および考察を伴って提示されたものを原著論文、新しい事実や速報的内容として価値のある知見を含む比較的短い報文を短報とし、特定の主題に関する包括的な知識の集成および見解を述べたものを総説とする。総説については、会員からの自由投稿のほか、編集委員会の企画で適任者への執筆を依頼することが有意義であるもの、測器や処理技術に関するものなどを含む。雑録は紀行報告、感想、資料、質疑応答などを含む。また、研究情報は、国内外の関連学会および機関の行事などの予告・記録、国内外の研究機関の紹介、書評、分野別文献目録などを含むものとする。掲載の可否は編集委員会が決定する。
  3. 校閲：原著論文・短報・総説に関しては校閲制度を設ける。編集委員会は、校閲の適任者2名以上を選び、原稿の査読を依頼する。論文の内容・体裁に関して問題があると編集委員会が判断した場合には、投稿者にその旨を通知し、修正を求める。修正を求めた原稿が3カ月以上たって編集委員会に返ってきた場合は、新規投稿として取り扱うことがある。
  4. 投稿：原稿は文章の部分、図、表を一つの電子ファイル（マイクロソフト社の「ワード」、もしくはそれと互換性のあるアプリケーションのファイル）にまとめて、電子メールに添付して以下の宛先に提出すること。  
送付・問い合わせ先：〒305-8506 茨城県つくば市小野川16-2 国立環境研究所 金谷 弦  
E-mail: gen@nies.go.jp
- なお、原稿中で、すでに印刷された図表ならびに本文を引用する際には著作権法に従い、著作権法に定められた引用の範囲を超えた「転載」が必要な場合には、著者の責任において著作権所有者の許諾を得るものとする。
5. 掲載料：学会負担印刷ページの限度を原著論文10ページ、短報4ページ、総説16ページとし、これを超える分については1ページにつき7,000円を著者が負担するものとする。ただし、編集委員会が特に依頼した原稿についてはこの限りでない。また、カラー図版については実費を徴収する。
  6. 別刷：別に定めた別刷定価表による費用を著者が負担する。ただしPDF版の別刷りは無料とし、論文出版時に著者に配布される。
  7. 校正：著者による論文の校正は、原則として1回のみとし、著者が受け取ってから3日以内に編集委員会に返却すること。校正は印刷のミスについて行い、本文や図表を変更することは認めない。校正段階でやむを得ず原稿を修正する場合は、組み直しに要した費用一切を著者が負担するものとする。
  8. 著作権：日本ベントス学会誌に掲載されたすべての報文（図表等も含む）の著作権は、日本ベントス学会に帰属する。

### 日本ベントス学会誌原稿作成上の注意

1. 原稿は原則としてワードプロセッサソフト（マイクロソフト社の「ワード」、もしくはそれと互換性のあるアプリケーション）で作成する。用紙サイズはA4とし、行番号を入れて文章の部分はダブルスペースで作成する。目安としては1ページあたり25行程度、1行あたり30～40文字程度、文字の大きさは10.5ポイント程度とし、明朝体かそれに類似する書体を使用する。日本語文字（括弧を含む）は全角文字、英語文字および数字はTimes系の半角文字とする。
2. 原著の報文原稿は、以下の順に配列する。1ページ目には、タイトル、著者名（連絡著者に\*をつける）、所属・住所、英文タイトル、英文著者名、英文所属・住所、ランニングタイトル、脚注に示される連絡著者の氏名、所属、住所を示す。2ページ目には英文要旨とキーワードを示す。3ページ目以降に、本文（はじめに、材料と方法、結果、考察）、謝辞、文献、表、図の説明、図、の順に配置する。1ページ目から末尾の図まで一連のページ番号を記す。
3. 短報も原著論文に準じた様式で作成するが、原稿の長さは原則として刷り上がり4ページ以内（全角文字2500字で1ページ換算、図表を含む）とする。短報については、本文を「はじめに」「材料と方法」「結果」「考察」といったセクションに分けずに執筆しても良い。
4. 英文要旨は、250語以下とする。
5. キーワードは、英語で8語以内とし、アルファベット順に配列する。
6. ランニングタイトルは20字以内とする。
7. 生物の名前は、それが初出の部分に学名も入れる。学名はイタリック体とする。学名の出典については、引用文献に

加えない（論文中での議論に必要な場合を除く）。

8. 本文中での文献の引用は、山本（1995）、菊地・田中（1990）、Sanders & Hessler（1980）、（金盛1982、市来ら1991）、（Smith 1985、Balber et al. 1990）のようにする。括弧とコンマは全角文字を使用する。小キャピタルは使用しない。
  9. 文献表記の方法は、著者名をアルファベット順に配列し、下記の形式で記すこと。欧文単行本名は全名詞大文字始まりのイタリックで、雑誌名は省略なく全部を表記する。欧文雑誌名はイタリックとすること。  
○○編の表記は○○（ed (s).）または○○（編）とする。  
George RW, Maine AR 1967. The evolution of spiny lobsters (Palinuridae): a study of evolution in the marine environment. *Evolution* 21: 803–820.  
Levinton JS 1977. Ecology of shallow water deposit-feeding communities, Quisset Harbor, Massachusetts. In: *Ecology of Marine Benthos*, Coull BC (ed.), University of South Carolina Press, Columbia, pp. 191–227.  
MacArthur RH, Wilson EO 1967. *The Theory of Island Biogeography*. Princeton University Press, Princeton, 203 pp.  
R Core Team 2019. R: A language and environment for statistical computing. R Foundation for Statistical Computing, Vienna, Austria. <https://www.R-project.org/> (accessed on 19 September 2019)  
市来忠彦・種村一茂・富永叶男・塩川 司 1976. イセエビのプエルルス幼生および初期稚エビの採捕とその生態. *水産土木* 12: 31–36.  
堀越増興 1973. 海洋ベントスの群集生態学. 山本護太郎（編）, 海洋生態学, 東京大学出版会, 東京, pp. 49–63.  
三宅貞祥 1982. 原色日本大型甲殻類図鑑（1）, 保育社, 東京, 261 pp.  
環境省 2007. 第7回自然環境保全基礎調査浅海域生態系調査（干潟調査）報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター, 236 pp. [http://www.biodic.go.jp/reports/2/6th/6\\_higata19/6\\_higata19.pdf](http://www.biodic.go.jp/reports/2/6th/6_higata19/6_higata19.pdf) (accessed on 19 September 2019)
  10. 図表とその説明は、英語表記とする。各図の説明は一括して原稿の末尾に置く。表の説明は、表の上に置く。図表の説明はそれだけで内容がわかるよう丁寧に記述すること。図表の挿入位置は、原稿の余白に明記すること。付表や付図は、論文末尾に掲載される。論文原稿中においては、通常の図表（Table, Fig.）とは別に、図表名を Table S1, Fig. S1 のように付して区別する。
  11. 写真を含むすべての図は電子ファイルとして作成することが望ましい。原図の大きさはA4サイズ以下（高さ250 mm、幅160 mm）を目安とし、文字の大きさや線の太さは縮示されて印刷されることを考慮すること。原図には図の番号を明記すること。Adobe イラストレーター（AI）形式、EPS形式、パワーポイント（ppt, pptx）形式、TIFF形式、JPG形式、GIF形式、PICT形式、BMP形式等のファイルが印刷可能である。線画や白黒写真などをスキャナで読み込んで電子化する際の推奨解像度は以下とする：線画は1200 dpi以上、写真は300 dpi以上、線画と写真の組み合わせの場合は600 dpi以上。
  12. カラー図版（1ページにつきおよそ30,000円）については実費を徴収する。なお、Web公開版については、カラー図版を無料で掲載することができる。その場合、Web公開用のカラー図版と、印刷体掲載用のグレースケール図版の2種類を準備すること。
  13. 電子的補助資料（electronic supplementary material）：論文本文に収録していないソースデータや、画像、動画、音声、コンピュータ・プログラム等について、電子的補助資料としてWeb（J-STAGE）上に掲載することができる。この場合、通常の図表および付表・付図とは別に、図表動画等の名を Table ES1, Fig. ES1, Movie. ES1 のように付す。また、以下のような説明を論文原稿中の「謝辞」と「引用文献」の間に示し、論文DOIのリンク（論文出版時に取得）を併記する。電子的補助資料についても、必ず論文中で引用すること。  
例：  
**Electronic supplementary material:** The online version of this article (doi: 10.5179/benthos.○.●●●) contains supplementary material:
- Table ES1  
Fig. ES1  
Movie ES1
14. 英語部分（タイトル、要旨、図の説明と図中の用語、表）については、必ず投稿前に英語を母国語とする適当な人のチェックを受けること。編集委員会は原稿レビュー前に英文チェックを受けるよう要請することがある。それらに要する費用はすべて著者負担とする。
  15. 原図ファイルは投稿原稿が受理された後、編集委員会からの指示に基づいて送付する。